令和６年 12 月６日

研修だより 49 号

笠小ルーブリックと校内研修の主題

小笠原康晃

先日、研修の振り返りアンケートの中に、「研修主題の「「学びを楽しむ子」の育成」と「笠小ルーブリック」の関連がわからない」という御意見をいただきました。

校内研修の時間は限られています。

放課後に授業について話し合うことも難しい現状です。

しかし、私の力不足により、研修の目的そのものと目的に到達するまでの手段が共有できていませんでした。

研修だよりで、改めて共有したいと思います。

「学びを楽しむ子」と聞いたとき、どのような子どもの姿を思い浮かべますか？

そこには、主体的に学習や活動に取り組む子どもの姿を思い浮かべる先生が多いと思います。

では、主体的な学びにするためには、どのような授業が大事なのでしょうか？

そして、これからの未来社会を生きていく子どもたちに必要な授業形態とはどのようなものなのでしょうか？

これからの子どもたちに育てたいものは「資質・能力」です。

これは、１時間の授業で育てる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とは、違うものです。

学校以外の場でも使うことができ、将来にわたって身につけさせたいものが資質・能力です。

本校では「思考力」を挙げています。

子どもたちが主体的に学ぶ授業では、必ず「思考力の向上」に繋がります。

自分たちで問題を見つけ、解決方法を探る。

この過程でこそ、思考力は向上します。

だから、「学びを楽しむことができる授業」＝「思考力の向上」と本年度は定義をしました。

このような授業を１時間で実施することは難しいです。

総合的な学習の時間のように、長い期間実施して身につけさせるものだからです。

教科学習においては、１単元の時間で育てたいものです。

現行の学習指導要領が目指す授業とは、このように単元を通した「資質・能力の育成」を目指しています。

では、どのような単元展開をすると良いのでしょうか。

「協働的な学び」と「個別最適な学び」がその答えです。

子どもたちには、自主的に学習に取り組んでほしいと願います。

自ら学ぶためには様々な学習形態があります。

現行の学習指導要領が目指す授業形態に近いものとして、「単元内自由進度学習」が例としてあげられます。

「自由進度学習」とはどのようなものでしょうか？

イメージとしては、「図工の授業形態」で「国語の授業を進める」というものです。

図工の授業では、初めに教師側からゴールが示されます。

例えば「本を読んだイメージを具体的に絵にしてみよう」という目標の単元があったとします。

図工室や学校図書館という環境が整えられ、絵を描く時間や想像を膨らませる時間が確保された子どもたちは、各々に学習を開始します。

本を選ぶ子。

本を読み返す子。

下書きをする子。

様々な学習の表れが出ます。

進度も自由です。

しかし、ゴールは決まっています。

「本を読んだイメージを具体的に絵にする」ということです。

この活動の過程で子どもたちは様々な経験をします。

友達の作品を見て、良いところを真似します。

先生に教えを請い、具体的な指導をしてもらうこともあります。

自分が描きたい方法でとことん描く子もいます。

自由な進度で進み、ゴールは共通しています。

このような学習は「自由進度学習」と言えます。

上記のような進め方で国語の授業を進めます。

すると、様々な課題が思い浮かぶかと思います。

「漢字の習得はどうするのか。」

「文章をしっかりと理解させるにはどうすれば良いのか。」

「どのように学びを深めていくか。」

多くの課題があります。

単元内での学習の進め方を、教師側で準備、設計をしていく必要があります。
学習の進め方で助けてくれるのはＩＣＴです。
ＡＩドリルを活用することで、自分の好きなタイミングで漢字の学習することができます。
また、一人一人の子どもたちがデジタル教科書を使うことで、文章を読むことが苦手な子の支援にもなります。
さらに、アプリを使うことで、個人の進度を把握することができ、個別支援をすることができます。
単元の中で、メリハリを付けることも大切です。
「この１時間は漢字の習得と文章理解に力を入れよう。」
「この２時間で、人物の性格を、叙述をもとに理解させよう。」
教師がメリハリのある単元計画をすることで、子どもたちの自由進度学習に繋げることができます。
メリハリのある単元計画は、笠原小の校内研修（授業研究）で取り組んでいます。
そのゴールは、「子ども主体の授業」です。
しかし、メリハリのある単元計画の授業をするためには、子どもの学習環境を整えたり、自分たちの力で取り組むためのワークシートを準備したりする必要があります。
一斉指導による授業よりも、教師の負担が大きくなります。

私たちが目指す授業とは「教師主導」の授業なのでしょうか？
だからと言って、子どもたちに自由に学習をさせることが「授業」と呼べるのでしょうか？
授業のゴールとなるものに到達させたいと思います。
しかし、そのゴールはかつてのように一概のものではありません。
なぜなら、私たちが育てたいのは「資質・能力」だからです。
「資質・能力」は一人ひとりが異なります。
「思考力」という同じ言葉を使っても、一人一人の子どもたちが育つ思考力」は全く異なります。
一概でない資質・能力を育てるために、必要な方法とはどのような方法なのでしょうか。
それは、ルーブリックとパフォーマンス評価です。
ルーブリックとは、段階別評価指標のことで、子どもたちに事前に示すものです。
国語の授業の例として、「ごんぎつね」で考えてみましょう。
単元のゴールが「叙述をもとに、登場人物の心情の変化を捉える」とします。
「教科書に書いてあることを比べて、ごんの気持ちの変化を捉える」がＡ評価。

「教科書に書いてあることをもとにして、ごんの気持ちに変化を捉える」がB評価。
「ごんの気持ちの変化を捉える」がC評価。
上記のように、単元のゴールの姿を具体的に子どもたちに明示します。
子どもたちは自分が目指す段階別の指標（単元のゴール）を目指して、学習を進めます。
ゴールが決まっていれば、そこまで辿り着く方法はたくさんあります。
子どもたちは、様々な方法でそのゴールを目指します。
このような姿は、主体的な学習をしている姿であり、学びを楽しんでいる姿であると考えます。

授業が進んでゴールに近づいてきました。
その評価はどのようにするのでしょうか？
ノートを見取るのでしょうか？
単元テストで見取るのでしょうか？
授業の様子で見取るのでしょうか？
そもそも、数時間という単元を通して頑張ってきたことを、「ノートだけ」「単元テスト」だけで見取って良いのでしょうか？
ここに出てくるのがパフォーマンス評価です。
子どもたちに事前に示したルーブリックは文章による表記が原則です。
幅広く表現することで、様々な角度から評価しやすくしています。
パフォーマンス評価は「子どもの現れを総合的に見取る」というものです。
「叙述をもとに、心情の変化を捉えることができているか」を総合的に見取るために、ゴールとして、「リーフレットづくり」をすることがあります。
リーフレットという成果物を通して、子どもたちの資質・能力を育むことができたかどうかを判断します。
ルーブリックとパフォーマンス評価はセットであり、外すことができません。

では、笠原小で行っているルーブリックとパフォーマンス評価はなんでしょうか。
それは、「笠小ルーブリック」と「ふりかえり」です。
２つの取り組みは「単元内自由進度学習」のような理想的な授業を目指している段階で、私以前の研修主任が考えた方法です。
笠小ルーブリックを考えた先生は、学習指導要領の意味を理解し、将来の笠原小が目指す授業を考えた先生だと感じています。
そして、その笠小ルーブリックを継続してくださった私以前の研修主任の先生方は、

笠原小らしさを活かした授業を考えてくださった先生方だと感じています。

旧来の方法「教師主導の授業」 ↓ 現在の笠原小「子どもたちが自分から学ぶ授業を目指して（メリハリのある単元計画）」 ・笠原小ルーブリック　・ふりかえり　・ＩＣＴの活用 ↓ 将来の笠原小「子どもたちが自分から学ぶ授業（単元内自由進度学習など）」 ・ルーブリック　・パフォーマンス評価　・ＩＣＴの活用

笠小ルーブリックは「学びを楽しむ子の育成」に大きく関わる重大な取組です。

笠原小が取り組んできた「かるまふ」の取組は、袋井型の授業スタイルの要請にも答え、さらに現行の学習指導要領が目指す授業像を具現化した、他校に類を見ない取組です。

この取組を継続していることが、笠原小の独自性であり、良さでもあります。

この取り組みの良さや重要性を、限られた時間の中で共有することができなかったことが、私の反省点です。

来年度の校内研修につなげていきたいと思います。